

## 「インドのグリーン・ファーマー杉山龍丸」についての研究発表

宮原 豊 (9 組)

私は 2018 年の第 6 回夢野久作と杉山三代研究会で「杉山龍丸とインド緑化の時代」、2019 年の第 7 回研究会にて「杉山龍丸とモラルジー・デサイ首相」と題する研究発表をしましたが、本年 3 月 13 日 (土) に第 8 回研究会において、「杉山龍丸と東京大学名誉教授・福田仁志博士との関係について」を発表しました。昨年 3 月開催予定がコロナ感染の影響で一年延期され、また今回も緊急事態宣言が再発令されたのでリモートで参加しました。ZOOM で自分がスピーカーとして講演するのは初めてでした。

今回の研究会は、杉山三代のうち夢野久作や杉山茂丸よりは「インドのグリーン・ファーマー杉山龍丸」に焦点が当てられましたが、アフガニスタンで銃弾に倒れた中村哲氏と龍丸の関係について発表されました。龍丸は旧制福岡中学卒、中村は福岡高校卒ですから、二人は同窓の先輩後輩の間柄でしたが、それだけではなく様々な関係がありました。



見逃し配信対応



### 夢野久作と杉山三代研究会 第8回研究大会 オンライン

- 開催日時■  
2021年3月13日(土)12時~18時30分(予定)
- 参加費用■  
一般参加 : 3,000円 会員 : 1,000円
- 主催団体■  
夢野久作と杉山三代研究会  
(公財)筑紫野市文化振興財団 筑紫野市文化会館
- オンライン配信事務局■  
株式会社NAGAI

さて、龍丸と福田博士の関係について簡単にお話しします。明治時代に政界の黒幕と言われた杉山茂丸を祖父とし、怪奇小説「ドグラ・マグラ」の作者として知られる夢野久作を父とする龍丸は、1960年代~1970年代にインドの砂漠緑化に尽力し、植林による緑化成功の方法を世界の砂漠・乾燥地の国々に広め、発展途上国の人々を旱魃・飢饉・飢餓の苦しみから救いたいと奮闘しました。

1968年のアフリカの大旱魃をきっかけに砂漠化問題が世界中で注目されましたが、それはその後の地球環境保護活動の先駆けでありました。龍丸のインドでの緑化成功に遅れること十数年後の1977年8~9月に、ナイロビで国連砂漠化防止会議(第1回世界砂漠会議)が開催されました。その会議で日本政府代表の福田博士は「杉山龍丸のインドでの成功事例」を世界に紹介しました。

福田博士は会議の様を「世界95か国から関係機関や団体も合わせ1,500人が参加。砂漠化について精粗はあるものの、初めて世界の砂漠問題の知識・経験が集大成された」と雑誌に書いています。灌漑農業の専門家として世界に知られた東大名誉教授(農学部)福田博士により紹介されたナイロビ会議での杉山龍丸の成功事例は大いに注目されました。

福田博士は会議の1年前の76年9月に、事前の情報収集のために福岡市に龍丸を訪ねました。龍丸にとって福田博士の訪問は予期せぬものでした。その後、龍丸宛に「インド緑化の事を直接拝承し感銘。技術の正当性を確認し、広く低開発地域への普及を念願する。日本側からの協力を一緒に検討したい」と書いています。

76年の最初の出会いから8年間に、福田博士と龍丸は55通以上の手紙を交換しています。1回毎の紙数が多く達筆のために判読に時間がかかりましたが、これら未発表の史料を読んで、そ

の当時の二人は「地球環境」というよりも「飢饉・飢餓の苦しみから人々を救いたい」というより切迫した問題意識を共有していたことを知ることができました。


日本では砂漠化問題に関心の薄い中、福田博士は龍丸のよき理解者であったと言えます。

ところで、今回は、若かりし頃から龍丸と親交のあった九州大学元教授（文化人類学）上田将（まさし）氏による数々のエピソードやアフガニスタンで人道支援・治水・灌漑農業に取り組んで志半ばで倒れた中村哲氏を支えた福岡 YMCA の志満秀武氏が、中村氏支援のためにペシャワール会が立ち上げられた時に参集した若者たちと龍丸氏の交流を紹介されました。史資料や書物やテレビ番組でしか知らない生の龍丸像に親近感を覚えました。また、アフガニスタンで中村氏を現場で支えたペシャワール会現地ワーカーの杉山大二郎氏（龍丸の親族ではない）がその活動の様子とともにアフガニスタンで中村氏が「グリーン・ファーザー：インドの砂漠を緑に変えた日本人・杉山龍丸の軌跡」（杉山満丸著）を読むように薦められたことが紹介されました。

また、今回はインド総領事館（大阪）から領事が出席され、またインド大使館（東京）VCC 館長（広報担当）シッタールト・シン博士からビデオ・メッセージが寄せられました。こういう縁が広がって、これからインド人研究者によりインド側の史資料が発見されることを期待します。


日印 2 か国の協力連携を進めることもこれからさらに重要になっていますが、それとともに日米豪印 4 か国連携（通称 Quad：クアッド）によるインド・太平洋地域での「自由で開かれた国際秩序構築のためのグローバル・パートナー・シップ」を推進していく上で、インドは真に重要な国となっています。引き続き、先人たちの築いてきた絆をあらためて振り返ってみたいと思います。（2021 年 3 月 16 日）

**アフガニスタンの中村哲の源流 杉山龍丸**




**中村 哲 医師**

写真当時38歳  
福岡登高会のテリチミール遠征隊同行医師となり  
海外医療協力で熱意を持ち現地との架け橋に  
なりたいたいと語る



1983年のペシャワール会  
立ち上げの時には  
すでにお互いを知っていた



**杉山 龍丸 氏**

写真当時64,5歳頃。  
龍丸氏36歳の時、士官学校時代の友人から  
インド人の青年の面倒を見てくれと依頼された  
のがインドとの繋がりの始まり

関連情報：65 期ホームページ掲載記事：

「グリーンファーザー杉山龍丸」のインド緑化の時代（2018 年 4 月 25 日）

[http://ueda65ki.sakura.ne.jp/NEWS/Miyahara\\_Essai180425.pdf](http://ueda65ki.sakura.ne.jp/NEWS/Miyahara_Essai180425.pdf)

「杉山龍丸」研究について（2019 年 4 月 16 日）

[http://ueda65ki.sakura.ne.jp/NEWS/Miyahara\\_Essai190415.pdf](http://ueda65ki.sakura.ne.jp/NEWS/Miyahara_Essai190415.pdf)